

事業名：常備消防用備品等整備事業

警防課 主査（装備）

政策	04 安全で快適な都市生活の充実							
施策	07 消防・救急の充実							
基本事業	99 施策の総合推進							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

災害現場等で活動する隊員

手段（事務事業の内容、やり方）

消防活動は年々複雑多様化しており、災害活動も苦難に満ちている中で効果的な消火・救助活動等を行うには、機動力を向上させる装備品が必要不可欠。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

装備が充実することにより、隊員が安全に救出・消火等の活動ができるようになる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	隊員数	人	130	130	130	—
対象指標2						
活動指標1	予算金額	千円	4,195	4,282	3,866	—
活動指標2						
成果指標1	装備品不具合件数	件	0	0	0	—
成果指標2						
事業費(A)		千円	4,195	4,376	4,147	5,408
正職員人件費(B)		千円	4,013	4,008	3,907	11,736
総事業費(A+B)		千円	8,208	8,384	8,054	17,144

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	消防用ホース及び空気呼吸器など消防用備品の整備	消防用ホース 2,273千円 空気呼吸器 400千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
消防は自然災害、人的災害、火災、救急救助等、活動も広範囲にわたり、都市化と人口増加による災害形態の変化と消防隊員の高齢化により、小人数でも安全に効率的な災害活動が行えるように装備の充実と軽量化が求められている。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 火災現場等の特殊な環境下で市民の生命を最優先に職員が安全に活動するための対策として妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input checked="" type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 消防組織法、消防法及び消防力の整備指針の規定に基づき行なっている基礎的事務事業である。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 整備計画に基づき老朽化による機能低下や修理不能な装備品の更新を進めている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 計画的に整備することで、職員の安全管理のほか活動職員の災害現場における活動時間の短縮などの成果が見られる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 使用する資機材及び装備品に関しては、整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新を図っている。